

プラン・ユースグループ

2022-2023 年活動報告書



PLAN YOUTH GROUP
for Plan International

2023 年 8 月

Introduction

プラン・ユースグループとは

国際 NGO プラン・インターナショナルは、女の子が本来持つ力を引き出すことで地域社会に前向きな変化をもたらし、世界が直面する課題解決に世界 75 カ国以上で取り組んでいます。2013 年より、若者の組織における意思決定への参画がグローバルで謳われるようになり、2014 年に日本のプラン・インターナショナルにもユースグループが設置されました。

プラン・ユースグループの活動は、大きくアドバイザーチームとアドボカシーチームの 2 つに分かれています。アドバイザーチームでは主に、プランの理事会や役員定例会への出席など組織意思決定への参画のほか、国内支援事業へのアドバイジング、YAS (Youth Advisory Survey) の実施をしています。アドボカシーチームは、2019 年 4 月からプランのアドボカシーグループと協働しており、主に、若者のジェンダー観などに関する調査やそれに基づく提言活動、イベント開催や SNS による啓発活動を実施しています。



アドボカシーチームのミーティング



アドバイザーチームのミーティング

プラン・ユースグループの 2022-2023 年

2022 年

	アドボカシー活動	アドバイザー活動
2022 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> G7 チーム：スタートアップワークショップ実施 	<ul style="list-style-type: none"> 年間目標決め①大目標 理事会への参加
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ガールスカウト日本連盟インターナショナルキャンプ登壇 	<ul style="list-style-type: none"> 年間目標決め②小目標 プラン名古屋の会（前会長：安藤理事）との会合「支援者とユースの関わりについて」
9 月	<ul style="list-style-type: none"> 「環境・持続社会」研究センター（JACSES）遠藤理沙氏による講演 	<ul style="list-style-type: none"> 国内支援事業とのミーティング 年間目標決め③成果指数決め 理事会への参加
10 月	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツチーム：笛美氏イベント実施 前期振り返りアンケート実施 「#若者の声のその後 5 次計の現在地」参加 	<ul style="list-style-type: none"> 担当ごとの年間目標・活動決め アドバイザー年間活動
11 月	<ul style="list-style-type: none"> リサーチチーム：アンケート調査開始（11/1～12/31） 16days of activism キャンペーン制作ワーク実施 前期振り返りアンケートの結果共有 リサーチチーム：大学にてワークショップ実施 	<ul style="list-style-type: none"> 役員定例会参加の準備 活動紹介動画作成 プラン職員へのユースグループ認知度調査 活動ふりかえり
12 月	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツチーム：国立女性教育会館（NVEC）男女共同参画推進フォーラム 2023 ワークショップ出展 	

2023 年

	アドボカシー活動	アドバイザー活動
2023 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> 新年会 今後の在り方について対面ワーク G7 チーム：環境 NGO との意見交換実施 W7 ハンドオーバーイベント参加 教育振興基本計画に関するパブリック・コメント提出 緊急避妊薬 OTC 化に関するパブリック・コメント提出 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局長との交流会 40 周年事業準備開始 わたカフェ訪問 マーケティングチームへのアドバイジング準備（プラン Web サイト改修について）
2 月	<ul style="list-style-type: none"> #FAIRly Tale Project との国際女性デー 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングチームとの交流会

	<ul style="list-style-type: none"> に向けた制作ワークショップ 朝日新聞社による取材 2023年度の活動について確認 W7 Youth consultation Conference 参加 	<ul style="list-style-type: none"> ランチタイムセッション準備 新規メンバーリクルート準備
3月	<ul style="list-style-type: none"> 広告ガイドライン増補版ローンチイベント「インターネットを利用した広告・マーケティングが子どもに及ぼす影響を考える」登壇 コンテンツチーム：東友美氏（町田市市議会議員）イベント実施 プラン国際女性デーイベント「シオリーヌさんと考える『性教育』～互いを尊重しあえる人間関係を築くには？～」登壇 G7 チーム：提言書ローンチ記念イベント実施 次年度のテーマやリクルートについて話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> 理事会への参加 豊島区若者居場所会議に向けた調査実施（YAS） 国内支援事業とのミーティング ランチタイムセッション実施
4月	<ul style="list-style-type: none"> 痴漢対策について内閣府特命担当大臣（男女共同参画）小倉将信大臣と面会 コンテンツチーム：秋月弘子氏（亜細亜大学教授）イベント実施 G7 チーム：C7（Civil7）登壇 W7（Women7）サミット参加 豊島区若者居場所会議参加 プラン・インターナショナル CEO スティーブン・オモロ氏と意見交換とインタビュー 新メンバー向け説明会実施 コンテンツチーム：白河桃子氏（相模女子大学大学院特任教授）イベント実施 40周年記念イベント参加 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム部との交流会 豊島区若者居場所会議参加 新メンバー向け説明会実施 40周年記念イベント参加・打ち上げ司会
5月	<ul style="list-style-type: none"> G7 チーム：内閣府訪問（提言提出） #FAIRly Tale Project との G7 広島サミットに向けた制作ワークショップ 新メンバー採用 リサーチチーム：ルッキズム（外見至上主義）を考える「ユースを対象にした容姿に対する意識調査」発表 	<ul style="list-style-type: none"> 理事会への参加 APDA 会議への参加国内支援事業とのミーティング 新メンバー採用
6月	<ul style="list-style-type: none"> 新メンバー加入 2024年度 役職決め オリエンテーション コンテンツチーム：福田和子氏（#なんでものプロジェクト代表）イベント実施 G7 チーム：環境省訪問（提言提出） 	<ul style="list-style-type: none"> 新メンバー加入 2024年度 役職決め オリエンテーション プラン職員へのユースグループ認知度調査実施 各部からのオリエンテーション

ユースグループ全体の活動

1. 40周年イベント参加

プラン・インターナショナルは2023年、日本事務局創立40周年を迎えました。事務局は創立40周年を記念して4月29日に支援者を対象としたイベントを開催しました。ユースグループからはアドバイザー・アドボカシーの両チームが運営の補助として参加しました。当日会場に設置されたSNS発信スポットでは、ユースメンバーが案内係を務め、来場者の写真撮影や拡散案内などを行いました。またプログラムの一つ、「プラン・ヒストリー～誕生秘話から日本での40年～」ではユースメンバーが代表で一人登壇し、棚田事務局長と共にプランの歩みを振り返りました。また、支援者交流会にはユースメンバーも参加し、支援者や職員とプランにまつわる思い出や活動に対する想いを語り合いました。イベント後に行われた懇親会では、役員や職員、来賓が一堂に会した場でユースメンバーが企画したレクリエーションを行い、立場を越えた交流の機会となりました。



(プラン・インターナショナル CEO のスティーブ・オモロ氏とユースメンバー)

2. YAP ALL の開催

今年度は、アドバイザー・アドボカシーの両チーム合同で行う全体ミーティング、通称 YAP ALL を2度開催しました。1度目は2022年10月にオンラインで開催し、お互いのグループの活動内容や進捗状況を共有しました。2度目は同年12月に開催し、所属グループの垣根を超えて交流を深めることを目的に、対面で行われました。ミーティングにはユースグループ出身で現在プランの理事を務めているカルロス氏を招き、活動上での課題に対してアドバイスを受けました。

Advisory アドバイザリー活動

今年度のアドバイザリー活動概要

1. 組織意思決定への参画

2. 事務局との意見交換

f

3. 国内支援事業に関するアドバイジング

4. 豊島区若者居場所会議への参加

5. 若者の SNS 利用の実態調査

1. 組織意思決定への参画

グローバルで組織の意思決定への若者の参画が謳われるようになり、2014年にユースグループが日本のプラン・インターナショナルに設置されました。プラン・インターナショナルのアドバイザリー担当に求められることは、理事会や役員定例会に出席し、ユース世代の意見や感覚を組織の事業や方向性に反映させることです。今年度は、理事会が5回、役員定例会が1回開催され、ユースがオブザーバーとして参加しました。収支予算やグローバルの総会への参加活動報告などに対し、質問、意見を述べました。

そして今年度は、元プラン・ユースグループメンバーのカルロス氏が理事に再選され、昨年度に引き続きユース理事を担当し、理事会にユースならではの新たな視点を提供するとともに、プラン・ユースグループのアドボカシー・アドバイザリーそれぞれの全体統括担当にも年に数回程度アドバイジングを実施しました。組織の意思決定の場におけるユース・エンゲージメントを促進した1年でした。

2. 事務局との意見交換

アドバイジング活動を強化するために、1月より各部部长・職員の方と交流会やランチタイムセッションを設けました。アドバイジング活動を行うにあたり、職員の方々とユースメンバーとの関係性を築くことを目的に、事務局長、マーケティング・コミュニ

ケーション部、リレーション開発部、プログラム部の方々を定例ミーティングにお招きしました。交流会では、ユースメンバーの自己紹介と部長の方々から各部の仕事内容の説明を受けました。各部署の仕事内容を十分理解できていなかったため、部長の方々から最新の活動内容も含めご説明いただきました。マーケティングチームには、プランのウェブサイト改修に伴い、事前にウェブサイトの改善点をまとめ提案させていただきました。ユースメンバーの春休みを活用し3月に実施したランチタイムセッションでは、交流会ではなかなかお招きできない職員の方4名が参加していただき、ヤングケアラーをテーマにディスカッションを行いました。

これらの活動を通じ、常に進行する各部署のプロジェクトに対して情報を把握することや、アドバイジングすることの難しさを感じました。しかし、交流会を通じて、職員の方々のアドバイザリーチームに対する認知度を高めることができたとともに、私たちもプランについての知識を増やすことができました。

2022年12月のプラン職員へのユースグループ認知度調査では、「事業を進める中で、ユース（アドバイザリー）に意見を求めたいと思ったことはありますか？」という問いに対し、「はい」と答えた人が32.5%から38.5%に上昇しました。

3. 国内支援事業に関するアドバイジング

パイロット期間を終え、2023年1月より本格稼働した国内支援事業に対して、引き続きアドバイジングを行いました。2ヶ月に1回の定例ミーティングでは、国内支援事業のメインである「わたカフェ」について、利用状況や相談事例などを共有いただき、気になる点を深掘りしたり、身近な事例と照らし合わせて考察を伝えたりするなど、ディスカッションを行いました。また、「ユースの視点から意見がほしい」と職員の方から質問・相談を受け、メンバーそれぞれの経験や考えを共有することもありました。

2023年には、アドバイザリーメンバーで初めて「わたカフェ」に訪問することが叶い（利用時間外）、どのような空間でどのような工夫をしながら支援が行われているかを具体的にイメージすることができました。空間の使い方やインテリア、本・マンガや無料配布物資などのレパトリーへの追加提案、空間づくり・支援におけるたくさんの小さな工夫について感じたことを率直に伝えるなど、実際に利用される方の立場に立って、「わたカフェ」がよりよい事業となるように意見交換をしました。



(「わたカフェ」のロゴ)

4. 豊島区若者居場所会議への参加

2023年4月17日に豊島区の生涯学習施設にて、アドバイザー・アドボカシーの両チームからそれぞれ2名が発表者として豊島区若者居場所会議に参加しました。この会議は定期的に行われており、豊島区行政機関（子ども若者課、中高生センタージャンプ）や民間団体（サンカクシャ、ピッコラーレ、みらい館大明ブックカフェなど）などから、20名程度が参加しており、年齢層は20代後半～50代です。過去にこの会議においてユース世代が発表をしたことはありませんが、わたカフェの助産師講座は2度行われています。

プラン・インターナショナルの国内支援事業担当職員にも参加していただき、この会議に参加するお話を頂いてから様々な場面でサポートを行っていただきました。今回は、ユース世代（10～20代）が使うSNSにはどのような種類があり、それらをどのように使っているのか、若者の支援活動に携わる豊島区若者居場所会議参加者の方々に知ってもらうことで、より効果的・必要な支援につなげてもらうことを目的に、『ユースとSNSの「リアル」』というタイトルのプレゼンテーションを行いました。

アドバイザーチームは、SNSの定義、種類、危険性、病みブーム、そしてYAS（Youth Advisory Survey）の調査結果などについて発表を行いました。病みブームとは、メンヘラブームとも言われる一種の流行であり、寂しがり屋であったり、精神が不安定であったりする若い女性が、SNSで「死にたい、構ってほしい」などと呟くことで面識の無い第三者がそれに反応し、彼女らの身に危険が伴う可能性があります。このように、大人の間には知れ渡っていないSNSの実態を伝えることを意識して、発表を行いました。またYASの調査は、アドバイザーメンバーを対象とした、SNSの利用の仕方・使っているSNSの用途・頻度や身の回り人のSNSにおける経験談等をインタビューやディスカッションを通じて調べました。このYASの調査については次節にて詳しく説明しています。

次に、アドボカシーチームには、2020年度に行った「女の子・女性に対するオンライン・ハラスメントに関する調査」における結果から、その原因、ハラスメントの種類、影響、

解決のための案などについて発表しました。また、発表の後にはユースメンバーと会議参加者との間でディスカッションセッションと質問のセッションを開催しました。ディスカッションでは、実際に現場で活動されている方々のお話を聞くことができ、私たちは多くの学びを得ることができました。この会議に参加したことで、ユースが積極的に発信する大切プラン・ユースグループや他の学生団体などのユースが、この会議のように大人に向けて若者の視点から情報発信をしていくことで、支援の充実度の向上に繋がると思います。よって、今回豊島区若者居場所会議に参加したことには大きな意義があると思います。



(豊島区若者居場所会議で使用したスライド)



(豊島区若者居場所会議での発表の様子)

5. 若者の SNS 利用の実態調査

上記の豊島区若者居場所会議に向けて、アドボカシーのメンバーと協働で、若者の SNS 利用の実態についての調査活動を行いました。アドバイザリーでは、主に国内支援事業担当と YAS(Youth Advisory Survey)担当のメンバーが中心となり、若者がよく見る SNS や新たに登場している SNS、SNS の危険性、病みブームなどについて調査を行いました。また、YAS 担当メンバーが中心となり、アドバイザリーチーム内でディスカッション形式のヒアリングを行い、情報リテラシーや学校におけるメディアリテラシー教育などについての調査も行いました。

豊島区若者居場所会議では、会議内のディスカッションや会後のアンケートを通じて、さまざまな意見、フィードバックをいただきました。今後、アドバイザリーメンバーで議論しつつ、YAS 担当メンバーが中心となってさらに若者の SNS 利用の実態について調査を行っていきます。

YAP内の調査結果

Q. 学校教育を通じて、情報リテラシーやメディアリテラシーについてどのように学習しましたか？

-  動画視聴を通じて、SNSの匿名性の危険性を学習した。
-  SNSの注意点として、文字のみだとミスコミュニケーションが起こりやすいことを学んだ。
-  情報の授業を通じて、情報は玉石混交のため、情報源を確認し、取捨選択することが重要と学んだ。
-  学校側がネットパトロールを行って、投稿に目を通してると念を押された。
-  大学では、学ぶ機会はほとんどない。たまにメールが送られてくる程度。

YAP内の調査結果

Q.SNSを通じて情報を受信する際に心掛けていることはありますか？

-  アカウントを確認している(信頼できる情報源か確認する)。
-  SNSは自身の好みによって、流れてくる情報に偏りがあることを意識する。
-  YouTubeやInstagramのコメント欄を確認し、発信者の情報を鵜呑みにしない(コメント欄に正しい情報がある場合も)。
-  信頼性が低いと判断したSNSをアンインストールする(受信しないという選択)。

(コースグループ内での調査の結果)

Advocacy アドボカシー活動

今年度のアドボカシー活動概要

1. ルッキズム（外見至上主義）を考える

「ユースを対象にした容姿に対する意識調査」

1-1 調査目的・背景

1-2 調査結果について

2. 国内のジェンダー問題に関する啓発活動

2-1 SNSによる広報・発信

2-2 ユースを対象としたイベント実施

3. G7 広島サミットに向けた調査提言活動

3-1 気候変動とジェンダーに関する調査結果と提言

3-2 提言書ローンチ記念イベントの実施

4. その他

4-1 ガールスカウト日本連盟 インターナショナルキャンプ登壇

4-2 「#若者の声のその後 5次計の現在地」参加

4-3 緊急避妊薬 OTC化に向けた取り組み

4-4 朝日新聞社による取材

4-5 広告ガイドライン増補版ローンチ記念イベント登壇

4-6 プラン国際女性デー記念イベント登壇

4-7 W7 サミット参加

1. ルッキズム（外見至上主義）を考える

「ユースを対象にした容姿に対する意識調査」

1-1 調査目的・背景

私たちユースメンバーの多くは「SNS で体型いじりの投稿を目にした」「女性は脱毛すべきと言われた」という経験があります。そこで、ユースの身近な問題として、容姿への期待や偏見があるのではないかと考えました。実際、ユニバーバ・ダヴの調査¹では、日本人の10代女性の93%が「自分の容姿に自信がない」と回答。容姿に関する課題が存在していることが明らかになっています。これらのことから、男性と比較して女性の方がより容姿に気を遣わなければならない、容姿におけるジェンダー・ステレオタイプが存在しているのではないかと考え、調査を実施しました。

1-2 調査結果について

調査の結果²、容姿について悩んだ経験を持つユースは男性で74.2%、女性で92.8%であり、容姿についての悩みはユースにとって身近な問題であり、女性の方がより悩んだ経験が多いことが分かりました。また他人から容姿を評価されて嫌な気持ちになった経験を持つ人は女性で49%、男性で32%であり、女性は男性と比較して17ポイント高くなりました。このことから男性と比較して女性の方が容姿により気を遣わなければならない状況にあるといえます。

私たちは調査の一環として都内の大学の学生向けにワークショップを行いました。その中でも男性と比較して女性の方が容姿により気を遣わなければならないことについて意見が出てきました。その背景には「女性は男性に選ばれる立場であるから」「見えない同調圧力があるから」などの理由が上がりました。このことから女性が容姿により気を遣わなければならない背景にはジェンダー・ステレオタイプが存在していると結論づけました。

2. 国内のジェンダー課題に関する啓発活動

2-1 SNSによる広報・発信

InstagramとTwitterを用いて、情報発信を行いました。国連デーに合わせた発信や、月毎に設けたテーマ、ユースグループの活動に関する投稿など基本的に週1回のペースで投稿していきました。同世代のユースにジェンダー課題に興味を持ってもらうため、「フェミニズムについて」、「気候変動とジェンダー」、「SRHR（性と生殖に関する健康と権利）」など、ジェンダーに関わるさまざまなテーマについて発信しました。昨年度1年間の活動で、新たに300人以上の方々にアカウントをフォローしていただき、現在のフォロワー数は800人となりました。

¹ ユニバーバ・ダヴ「ダヴによる少女たちの美と自己肯定感に関する世界調査レポート」(2017)

² プラン・ユースグループ実施 ルッキズム（外見至上主義）を考える「ユースを対象にした容姿に対する意識調査」報告書
https://www.plan-international.jp/youth/pdf/0602_Youth_Report_01.pdf

また、昨年度の新たな取り組みとして、御茶の水美術専門学校の#FAIRy Tale Project のみなさんとコラボ制作を行いました。#FAIRy Tale Project は、2023年5月に開催されたG7広島サミットに向け、「気候変動対策におけるユース女性のリーダーシップ促進」のための啓発活動を行なっているプロジェクトで、おとぎ話や昔話をモチーフにしたクレイアニメによって、気候変動にまつわる国内外のジェンダー問題を発信しています。3月8日の国際女性デー、そしてG7チームが作成した「気候変動とジェンダーに関する調査報告書」について発信するため、#FAIRy Tale Project のみなさんと協働で紙粘土を用いた「練り絵」とクレイアニメの作成を行いました。普段とは異なる、アートを用いた新しい形での投稿を行うことでより広い層に向けて情報発信をすることができました。



(#FAIRly Tale Project「3匹のこぶた」と「女の子への教育」に関する発信)





(フェミニズムについての投稿)



(プラン・ユースグループの Instagram)



(#FAIRly Tale Project との協働発信)



(プラン・ユースグループの Twitter)



(国際女性デーに関する練り絵製作・# FAIRly tale project メンバーとユースメンバー)



(国際女性デーに関する練り絵作品)



(「気候変動とジェンダーに関する調査報告書」に関する、
FAIRly tale project とのクレイアニメによる発信)

2-2 ユースを対象としたイベント実施

外部のユース、またプラン・ユースグループのメンバーがともにジェンダーについて学ぶためのオンラインイベントを計 6 回実施し、以下の講師の方々に、メンバーが関心を持っているジェンダーやセクシュアリティに関連する様々なテーマについて講演いただきました。

毎回講演後には、参加者同士で感想を共有する時間を設け、講師の方のお話を聞くだけでなく、参加者同士で対話をしてもらうことで、各自が問題をより自分ごととして捉え、各タイトルにあるように「考える」時間としてもらうことができました。また、これまでは対象年齢を 15-24 歳のユースとしてきましたが、今年度は新たな試みとして、少し幅を広げ 29 歳までとしたり、国立女性教育会館（NWEC）男女共同参画推進フォーラムでは年齢制限を設けずに開催したりしました。社会人の方や、世代の異なる方との意見交換もでき、私たちにとっても、高校生や大学生以外の方と話し合える貴重な時間となりました。

今年度も、年間のべ 80 名ほどのユースにご参加いただき、有難いことに毎回の事後アンケートでは、高い満足度を得ることができました。お忙しい中ご登壇、ご参加いただいた講師のみなさま、参加者のみなさまに改めてお礼申し上げます。

	講師	タイトル
第 1 回 (2022 年 10 月 8 日)	笛美氏 (会社員)	「笛美さんと考える！フェミニズムのこと」
番外編 (2022 年 12 月 15 日)	プラン・ユースメンバー	「考えてみよう！ジェンダーフリーな広告とは？」 (NWEC フォーラム 2023 出展)
第 2 回 (2023 年 3 月 2 日)	東友美氏 (町田市議会議員)	「町田市議会議員・東友美さんに聞く！アロマンティックとアセクシュアルについて」
第 3 回 (2023 年 4 月 8 日)	秋月弘子氏 (亜細亜大学教授、 女性差別撤廃委員会委員)	「考えよう！ジェンダーのこと 日本は？他の国は？」
第 4 回 (2023 年 4 月 28 日)	白河桃子氏 (相模女子大学大学院 特任教授)	「ユースで考える！ ～夫婦が対等で幸せな家庭を築くためには～」
第 5 回 (2023 年 6 月 22 日)	福田和子氏 (# なんでないのプロジェクト代表、 SRHR アクティビスト)	「福田和子さんと考える！わたしたちの SRHR」



(Instagram によるイベント告知の例)



(福田和子氏をお招きしたイベントの様子)

3 節 G7 広島サミットに向けた調査提言活動

3-1 気候変動とジェンダーに関する調査結果と提言³

2022 年に行われた第 66 回女性地位委員会（CSW66）にて、気候変動とジェンダー問題について話し合われたことや、G7 をはじめとする国際会議にてジェンダー的視点が重要視されていることから、2023 年の G7 広島サミットに向けて気候変動とジェンダー問題について提言することを目標として活動してきました。

調査内容はユース（15～24 歳）が気候変動とジェンダー問題において、またはそれらの結節点において理解及び関心

³ プラン・ユースグループ実施 気候変動とジェンダーに関する調査報告書

https://www.plan-international.jp/youth/pdf/202303_ClimateChangeandGender.pdf

があるのかについてです。方法については、15 歳から 24 歳の男女 1000 人を対象にアンケート調査を実施しました。15 問の質問を設定しました。

ジェンダー課題に対する日本政府の対策への満足度をたずねる Q1 と、日本政府の気候変動対策に対する満足度をたずねる Q4 の双方で「わからない」と回答した人が全体の 13%を占めました。双方で「わからない」と回答した層は、政治への関心が薄く、「気候変動とジェンダー問題が関わっている」と認識していない可能性があります。

Q6 では、気候変動について「小学校・中学校・高校で学んだ」と回答した人が多く、特に「中学校と高校で学んだ」という回答はそれぞれ 50%を超えたため、教育が気候変動への理解に大きく貢献しているといえます。

Q7 では、Q6 で「学校で気候変動について学んだ」と回答した人に対して、「どの授業で学んだか」を問いました。その結果「理科・科学の授業で学んだ」と回答した人が約 60%を占めました。

Q9では、世界の気候変動が及ぼすジェンダー不平等について、全体の約 3 割のユースが「わからない」と回答しました。災害時の「レイプなどの家庭内暴力の増加」、「水不足による生理時の衛生状態」、「生理用品などの女性特有の支援品の不足」の 3 つの項目が上位であり、それぞれ男性より女性の回答が多い結果となりました。女性は当事者性が特に強いいため、女性の回答の方が多くなったのではないかと予想できます。また、気候変動でジェンダー問題が悪化していることを理解しているユースは少ないと考えられます。

これらの調査内容から、学校・大学、政府、自治体を提言先とし、提言を作成しました。それぞれの提言は以下の通りです。

○学校・大学への提言

- 1.主権者教育の導入
- 2.教員の研修必修化(ジェンダーと環境問題への知識を増やす)
- 3.専門家と連携し、質の高い教育へ
- 4.女性の STEAM 分野⁴選択への支援
- 5.STEAM における女性ロールモデルを増やす（女性教員を増やす）

○政府への提言

- 1.意思決定プロセスへの若者の参加
- 2.提言内容の反映の義務化
- 3.国家予算をジェンダー問題へ使用
- 4.積極的な情報開示と普及啓発

○自治体への提言

- 1.市民参加型予算の導入

⁴ STEAM 分野 Science/Technology/Engineering/Arts/Mathematics)。主に理系分野のことを指す。

C7 (Civil7) ⁵サミットへの登壇、内閣府男女共同参画局や環境省への提言をしました。今後、文部科学省にも提言する予定です。



(「気候変動とジェンダーに関する調査報告書」)



(G7の公式エンゲージメントグループC7 (Civil7) に登壇)

⁵ 市民社会が組成する、G7の公式エンゲージメントグループの1つ <https://civil7.org/>



(内閣府男女共同参画局訪問)



(環境省訪問)

3-2 提言書ローンチ記念イベントの実施

2023年3月28日に、環境アクティビストの小野りあんさん、御茶の水美術専門学校 # Fairy Tale Project 担当の学生2名、ガールスカウト日本連盟・大阪府連盟の永嶋里香さんをお迎えして提言書ローンチイベントを開催しました。参加者の皆様からは、「気候変動とジェンダーの関わりが全く分からなかったが、分かるようになった」「友だちとこのテーマで話してみるとか、本当に小さいことだけど微力ながら行動してみたい」などの声をいただきました。ローンチイベントに登壇してくださった小野さん、永嶋さん、御茶の水美術専門学校の学生2名には感謝申し上げます。また、お忙しい中イベントに参加してくださったみなさまにも重ねてお礼申し上げます。



(G7 チーム「気候変動とジェンダーに関する調査報告書」ローンチ記念イベントの様子)

4 節 その他

4-1 ガールスカウト日本連盟国際キャンプ登壇

2022年8月12日に、公益社団法人ガールスカウト日本連盟100周年を記念して行われた国際キャンプにて、「活動家のお話」のプログラムにオンラインで登壇させていただきました。包括的性教育の必要性や、アドボカシー活動の大切さについてのお話をさせていただきました。私自身も、小中高生のみなさんから元気をいただくことができました。お声がけくださったガールスカウトのみなさま、ありがとうございました。

4-2 「#若者の声のその後 5次計の現在地」⁶参加

2022年10月25日、第5次男女共同参画基本計画がどのように進んでいるのか、ユースの声はどの様に反映されているのかを各関係省庁、国会議員の先生方との意見交換会に参加してきました。プラン・ユースグループでは現在の教育政策の中で各科目に分散されている人権教育と性教育を包括的性教育として行う必要性を発言してきました。実際の教育現場で包括的性教育が実施されるまでにはまだまだ多くの壁がありますが、声を上げ続けていくことが必要であると感じました。



(小倉男女共同参画担当大臣を囲んで ©Yuichi Mori)

⁶ ユース活動報告「#若者の声のその後 —5次計の現在地—」<https://www.joicfp.or.jp/jpn/2022/12/08/51508/>



(発表するプラン・ユースグループメンバー ©Yuichi Mori)

4-3 緊急避妊薬 OTC 化に向けた取り組み

プラン・ユースグループでは、緊急避妊薬 OTC 化に向けて、2022 年 12 月末～2023 年 1 月末にかけて厚生労働省が行ったパブリック・コメントに意見提出を行いました。また、緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクト「# 緊急避妊薬を薬局で」のみなさまにお声がけいただき、2023 年 1 月 26 日に、伊佐進一厚生労働副大臣への緊急避妊薬のスイッチ OTC 化に伴うパブリック・コメント取扱いに関する要望書並びに記者会見に同席させていただきました。パブリック・コメントの結果公表後、検討会が行われ、今後、一定の要件を満たす薬局で試験的に販売を行う方針が示されましたが、全面的な薬局販売の実現へはまだ時間がかかる見通しです。プラン・ユースグループでは今後も、緊急避妊薬 OTC 化の実現に向けて今後もアクションを起こしていきます。

4-4 朝日新聞社による取材

朝日新聞社より、ユースの性教育に関する調査や実態について取材いただき、2023 年 2 月 26 日付けの記事⁷に掲載いただきました。記事では、性教育が足りていないがために、自分の身体を大切にするという当たり前の権利を教えられておらず、危機感を抱いているユースも少なくない現状をお話させていただきました。記事にもあるように、途上国や先進国に関係なく、「SRHR（性と生殖に関する健康と権利）」の啓発・普及が幅広く行われ、すべての人に必要な性教育が行き渡ることを願っています。

⁷ 日本にも地続きの「女だから」 途上国での支援、私たちにも足りない 朝日新聞（2023 年 2 月 26 日）
https://www.asahi.com/articles/ASR2T46YSR1TUHBI00Z.html?iref=pc_extlink

4-5 広告ガイドライン増補版ローンチ記念イベント「インターネットを利用した広告・マーケティングが子どもに及ぼす影響を考える」登壇

公益社団法人セーブ・ザ・CHILDREN・ジャパンが作成した「子どもに影響のある広告及びマーケティングに関するガイドライン2023年増補版」⁸の完成を記念して、一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンとの共催で、2023年3月1日に行われたオンラインイベント「インターネットを利用した広告・マーケティングが子どもに及ぼす影響を考える」へ、ユースとしてパネルディスカッションへ登壇させていただきました。イベントでは、ユースが2019年に行った「広告でのジェンダー描写に関するユースの意識調査」から、広告におけるジェンダーや容姿の描かれ方がユースにどのような影響を与えているかについて、実態や経験をお話させていただきました。様々な企業の方にご参加いただき、「ジェンダー・バイアスに関する気づきを得た」というコメントも複数いただくことができました。

4-6 プラン国際女性デーイベント「シオリーヌさんと考える『性教育』～互いを尊重しあえる人間関係を築くには？～」登壇

プランが2023年3月8日の国際女性デーに行ったオンラインイベント「シオリーヌさんと考える『性教育』～互いを尊重しあえる人間関係を築くには？～」にて、ユースメンバーとして、調査の発表とパネルディスカッションに参加しました。ユースグループに入った2年前は私自身も知らなかった「SRHR（性と生殖に関する健康と権利）」ですが、憧れのシオリーヌさんと共に、「SRHRをぜひ覚えて帰ってください！」と自信をもって言えるようになったことに驚きもありました。ユースから親世代まで幅広く、300名ほどの方にご参加いただき、たくさんの温かいお言葉をいただくことができました。ご参加くださったみなさま、またユースの登壇を企画してくださったみなさま、本当にありがとうございました。



(国際女性デー2023 オンライントークイベントの告知と当日の様様)

⁸ <https://www.savechildren.or.jp/partnership/crbp/pdf/fm2023.pdf>

4-7 W7 サミット参加

2023 年 1 月に行われた「Women7 ドイツから日本に引き継ぎキックオフイベント」また、同年 4 月に行われた「W7 Summit 2023」に参加しました。

W7 (Women7)⁹とは、G7 の公式なエンゲージメントグループの 1 つで、G7 プロセスの中でジェンダー平等と女性の権利に関する提案を促進するために集まった市民社会組織の集まりです。(内閣府・男女共同参画局 HP より)

サミットでは、世界 38 개국、87 名の W7 アドバイザーが議論をまとめてられた W7 コミュニケが発表され、内閣府から小倉蔣信女性活躍・男女共同参画担当大臣も出席されました。世界中のフェミニストたちが集まった様子は、ジェンダー平等と女性の権利向上のために共に声を上げていることを再確認でき、非常にエンパワーされ、学びを深める機会となりました。



(ユースグループのメンバー同@W7 サミット)

⁹ <https://women7.org/>